

2018年度 前期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	菅 修一
顕彰科目名	児童サービス論
<p>●授業運営において工夫している点</p> <p>1. 全員が実演する。 ブックトーク、紙しばい、絵本の読み聞かせ、詩の朗読について、受講学生全員が教壇のところに立って、実演してもらいます。紙しばいについては、小生の手持ちの紙しばいが12種類程度しかないので、一つの紙しばいを2～3人のグループで演じてもらいます。受講生の皆さんは、仕方なしに実演するのではなく、楽しみながら実演してくれます。紙しばいをグループで実演する場合、担当者が指示したわけではありませんが、登場人物やト書きを各人が分担するなどしています。教壇でみんなの前で実演することはなかなかないので、受講生はアウトプットすることの心地よさを感じています。</p> <p>2. 外部の方による見本になる実演を見る機会を作る ブックトークについては、京都のボランティア団体「ブックトークと本棚の会」の皆様に講演＋見本になるようなブックトーク公演2題をしていただきました。学外の方の本格的な実演を見ることができて、各人のブックトーク実演に随分参考になっています。</p> <p>3. コミュニケーション・カード 実演してみて、他の人の実演を見ての感想を書いて提出してもらいます。各人の記述した内容は、内容のよっては趣旨を変えない範囲で編集しますが) 全て、次回のレジュメに記述し、全員に配布します。自分の実演が見ていた人にどのように受け取られたか、特によい評価だと実演したことが自分の自信につながるようです。なので、コミュニケーション・カードは担当者が読むだけでなく、受講生に還元することを心がけています。</p> <p>4. よかった実演についてほめる レジュメを配布する際などに、「コミュニケーション・カードで評判よかったよ」等、声をかけ、実演後に「しっかり覚えられたね」など声をかけますと、当該受講者はニコッと笑顔で返してくれます。他の講義で地味で消極的な学生がいろいろ工夫します。声をかけることも大事だと思いました。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えていることなど</p> <p>上記の留意点を中心に継続していくことです。手間ヒマがかかる部分もありますので継続が大事です。それと、極力、受講生とコミュニケーションする姿勢で取り組みます。</p>	